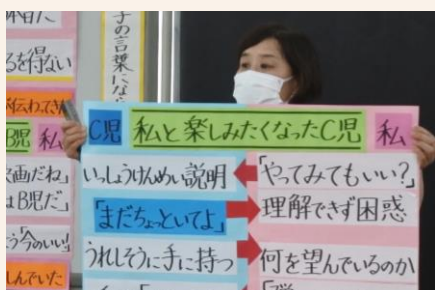
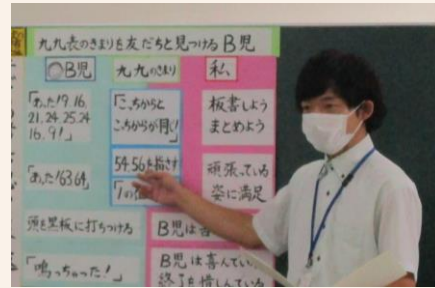
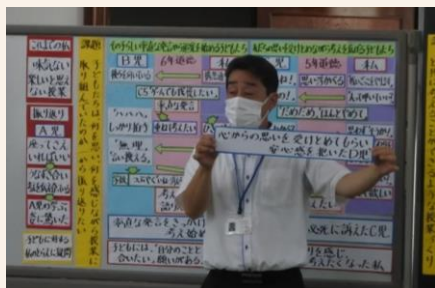


令和3年度 信濃教育会 教育研究発表会

信濃教育会館と生涯学習センターの2会場にて、第73期教育研究所研修員*による研究発表会が行われました。自らの実践を振り返り、仲間と学び合いながら教師としての自分のあり方を見つめ直した1年次研究。学校現場で、子どもたちとかかわりながら研究を深めた2年次研究。そんな2年間の研究の成果を6名の研修員が発表しました。

*研修員は令和4年度から研究員に名称が変わります。



■ 令和3年度 研究発表会

中南信会場 7月10日(土) 生涯学習センター
東北信会場 7月22日(木) 信濃教育会館

■ 研究テーマ

第1テーマ

教師と子ども、子ども相互の関係づくりをどうすすめるか

第2テーマ

子どもの学びをどのように充実させるか

第3テーマ

子どもの願いに立った授業づくりをどう進めるか



■ 参加した方の感想から

- 発表者の先生が、「以前は集団をまとめることが子どものためになると考えていた」と仰っていて、今の私のことだと気付かされました。今、学級担任をしていて、あいさつや整列に遅れる子はどうかしない、と思っています。その子が遅れる原因を考えたり、その子の夢中になっているものを一緒に楽しんだりしていきたいと思いました。(初任者)
- 自分は生徒を「困った生徒、やっかいな生徒」としておわらせていないか。弱いところをつかまれる思いで学ばせていただきました。子どもの言葉にならない訴えに耳を傾げるために、自分のプライドや見栄よりも、子どもが何を受け取っているかという目線を大切にしていきたいと感じました。(初任者)
- 授業ってやっぱり子どもと先生でつくった方がイキイキとして楽しいだろうなと思いました。そんな教室なら「また明日も学校に行きたい」と思えると思います。(一般)
- 生徒一人ひとりの学習の積み重ねは異なる。だからなのか、生徒がよいと思う正しさ、納得する方法は違うのだと思いました。「どうして?」と、まず、生徒の声に耳を傾けることが、生徒が安心して追究できる環境をつくるのだと思いました。(一般)